



1923年

竣工当時の丸の内ビルディングと当時の丸ビルの3連アーチ。



1999年

東京駅前の丸ビル建替え工時に現れた松杭。約76年もの間、震災にも耐え日本を支えてきた。



三菱地所と木工家の萩野との思いの二つが重なり、約3メートルにも及ぶ松杭から萩野は積み木として再生(Reborn)させた。



2002年

現在の丸ビル。新しく竣工された今でも下層部分に当時の「三菱地所」の意思は継承されている。

# 生まれ変わった松杭

丸の内のシンボル、丸ビル建替え作業の最中。5,443本もの巨大な松杭が地中から現れました。

地下深く打込まれていた大量の松杭は、震災にも負けず、朽ちることなく、地中に広がる森のごとく林立しながらビルを支えていたのです。

近代日本建築の先駆けともいえる丸ビルを、76年間の永きに渡って誰にも気づかれずに支えてきた静かな森。建替えを進めてきた三菱地所は、この偉大な松杭を再利用したいと考えました。しかし建材としての使用には不安が残るため、再生紙として加工することが決定したのです。

木工家の萩野が、この話を知ったのはそんな折りのことでした。

遠く北米で育ち、海を渡った巨大な松杭。永きに渡って地中から、日本を支えてくれた松杭。この巨木が歩んだ歴史を、刻まれた年輪と共に残したい。自身が手掛ける積み木として、新たな命を与えたい。

再利用ではなく、『再生(Reborn)』。それは三菱地所の願いでもありました。

二つの思いが重なり合い、巨木は生まれ変わりました。小さく小さく姿を変え、子供たちの手に収まりました。支えるという使命そのままに、心を育む積み木として。もし松杭が声を持っているならば。子どもたちに、我々に、どんな言葉を囁きかけてくれるでしょう。

## Reborn

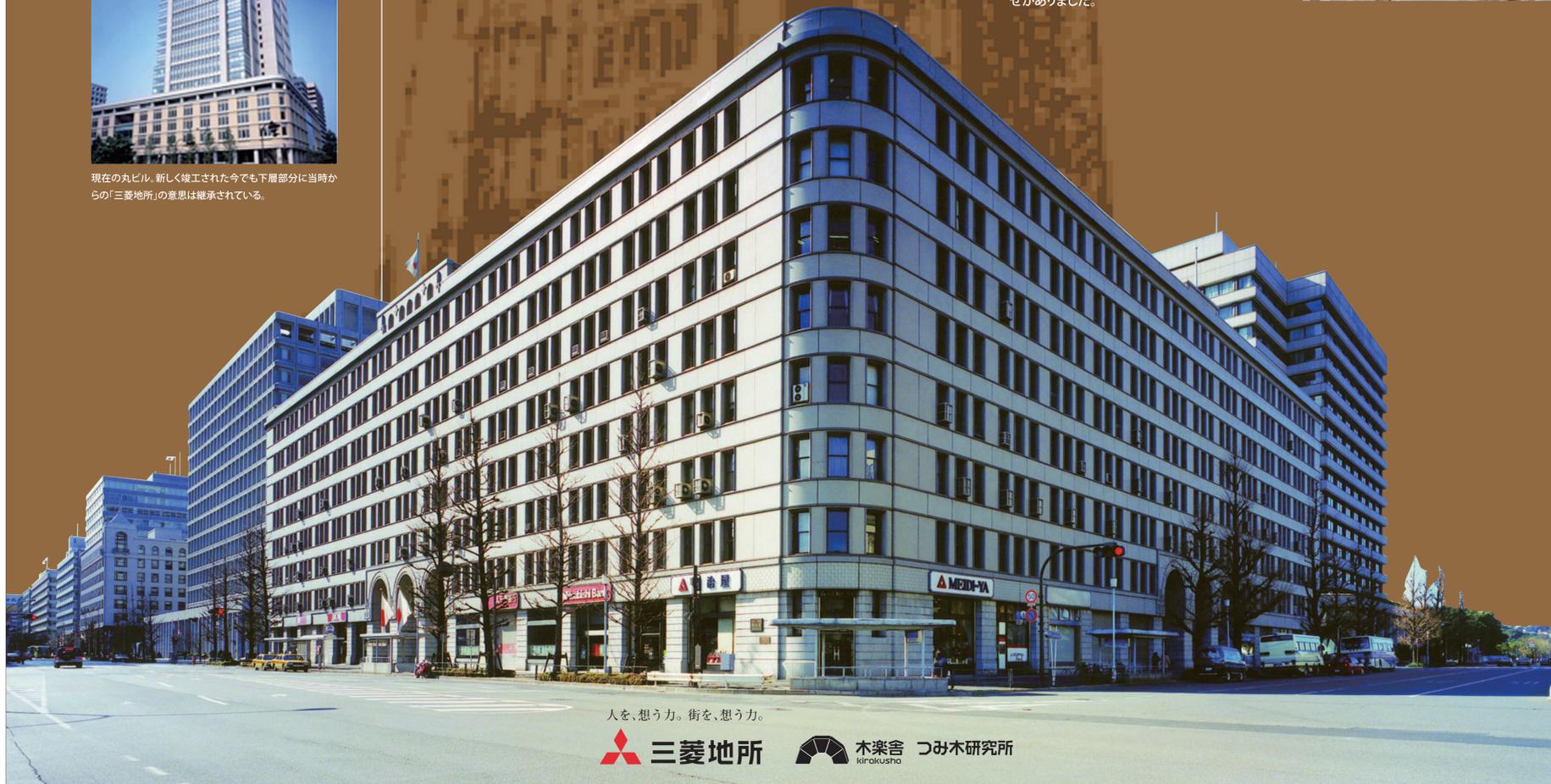
絵で作られている「楽つみ木」の中には、木目も美しい黒地の積み木がいくつか混ざっています。これは旧・丸ノ内ビルを基礎として支えていた松杭を再生したものです。

直径30cm、長さ15mにもなる北米産オレゴンパインの松杭は、全体にグレーがかっていましたが、中心部分は米松独特の赤っぽい木の色を保ち、松脂すら出ていました。

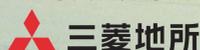
この松杭の積み木に対する反響は大きく、「子供たちにこの木の話を話してあげたい」「積み木をきっかけに当時の思い出を子供や孫に話したい」「以前に丸ビルで働いていたので、記念として購入したい」など、多くの問い合わせがありました。



▲再生(Reborn)された松杭のつみ木。



人を、想う力。街を、想う力。



木楽舎 積み木研究所



1923年

竣工当時の丸の内ビルディングと当時の丸ビルの3連アーチ。



1999年

東京駅前の丸ビル建替え工時に現れた松杭。約76年もの間、震災にも耐え日本を支えてきた。



三菱地所と木工家の萩野との思いの二つが重なり、約3メートルにも及ぶ松杭から萩野は積み木として再生(Reborn)させた。



2002年

現在の丸ビル。新しく竣工された今でも下層部分に当時の「三菱地所」の意匠は継承されている。

# 生まれ変わった松杭

丸の内のシンボル、丸ビル建替え作業の最中。5,443本もの巨大な松杭が地中から現れました。

地下深く打込まれていた大量の松杭は、震災にも負けず、朽ちることなく、地中に広がる森のごとく林立しながらビルを支えていたのです。

近代日本建築の先駆けともいえる丸ビルを、76年間の永きに渡って誰にも気づかれずに支えてきた静かな森。建替えを進めてきた三菱地所は、この偉大な松杭を再利用したいと考えました。しかし建材としての使用には不安が残るため、再生紙として加工することが決定したのです。

木工家の萩野が、この話を知ったのはそんな折りのことでした。

遠く北米で育ち、海を渡った巨大な松杭。永きに渡って地中から、日本を支えてくれた松杭。この巨木が歩んだ歴史を、刻まれた年輪と共に残したい。自身が手掛ける積み木として、新たな命を与えたい。

再利用ではなく、『再生(Reborn)』。それは三菱地所の願いでもありました。

二つの思いが重なり合い、巨木は生まれ変わりました。小さく小さく姿を変え、子供たちの手に収まりました。支えるという使命そのままに、心を育む積み木として。もし松杭が声を持っているならば。子どもたちに、我々に、どんな言葉を囁きかけてくれるでしょう。

## Reborn

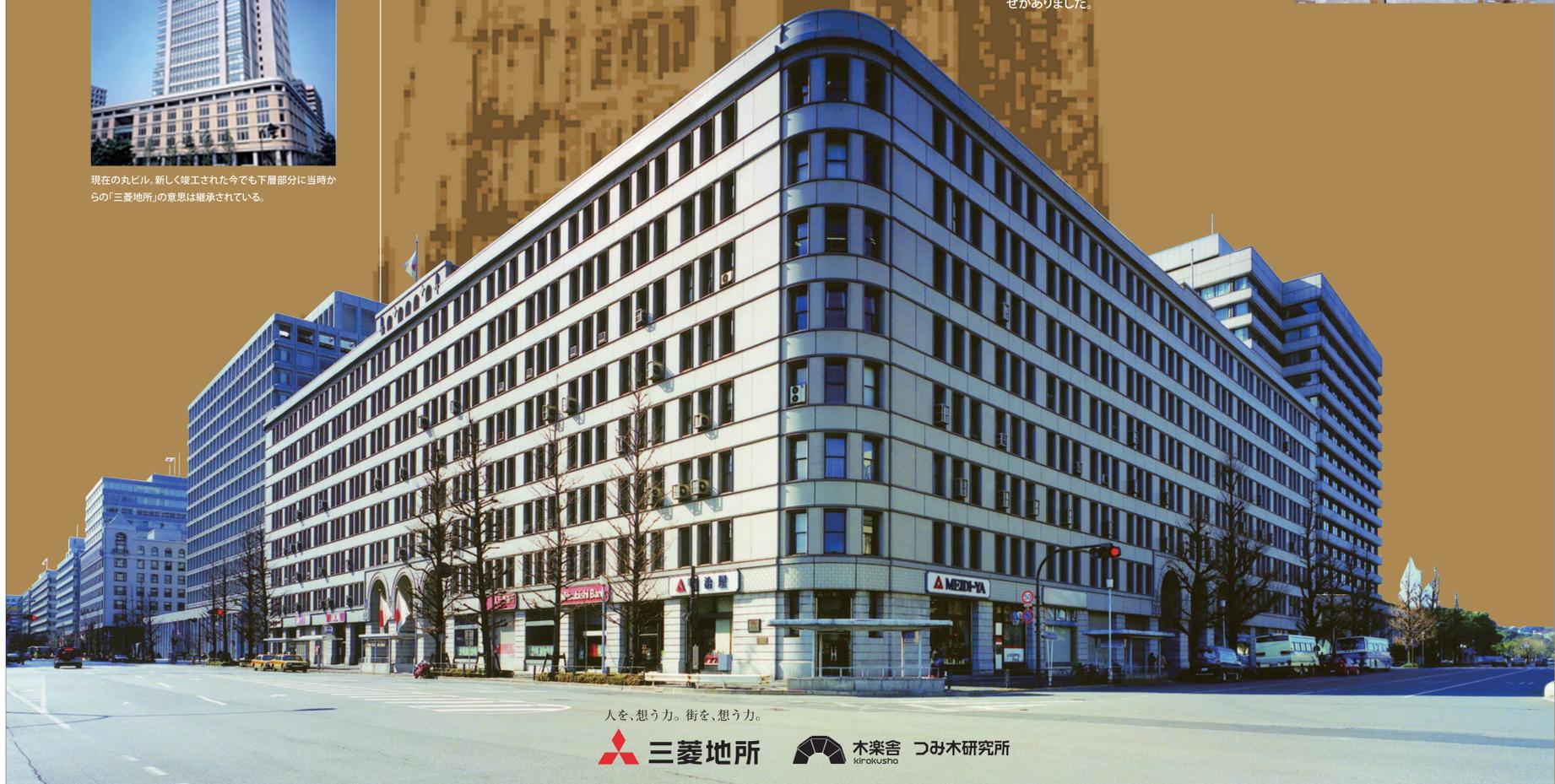
絵で作られている「楽つみ木」の中には、木目も美しい黒地の積み木がいくつか混ざっています。これは旧・丸ノ内ビルを基礎として支えていた松杭を再生したものです。

直径30cm、長さ15mにもなる北米産オレゴンパインの松杭は、全体にグレーがかっていましたが、中心部分は米松独特の赤っぽい木の色を保ち、松脂すら出ていました。

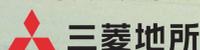
この松杭の積み木に対する反響は大きく、「子供たちにこの木のことを話してあげたい」「積み木をきっかけに当時の思い出を子供や孫に話したい」「以前に丸ビルで働いていたので、記念として購入したい」など、多くの問い合わせがありました。



▲再生(Reborn)された松杭のつみ木。



人を、想う力。街を、想う力。



木楽舎 つみ木研究所  
kirakusha